

まず初めに、私がマインツ大学への医学留学について知ったのは、佐賀大学のホームページに掲載されていた以前マインツ大学の麻酔科に短期留学された先輩方の報告書を見たことがきっかけでした。そこで麻酔科の坂口教授に可能かどうか伺ったところ、マインツ大学の福井先生に連絡を取ってくださり、この留学が実現しました。

4週間の実習では、最初の2週間で脳神経外科の麻酔を見学し、次の1週間で一般・腹部外科、最後の1週間で整形外科を回りました。まず朝は麻酔科の先生方とカンファレンスに参加し、今日の手術予定とどんな麻酔をするかの指示を貰います。その後、それぞれが担当の手術室に入り、患者さんの搬入・麻酔前の確認をして、麻酔を導入します。手術が始まると担当の先生に質問したり、説明してもらったりして過ごし、手術が終わるとリカバリールームあるいはICUに搬出していました。手術室では1日に何件か手術が行われます。

ドイツと日本の麻酔は大枠ではあまり変わりませんでした。ドイツの手術室には麻酔用の部屋があり、そこで麻酔科医と麻酔看護師のみで導入を行い、麻酔が終わってから手術室に運びます。この部屋があるために、患者も医師も麻酔に集中でき、かつ手術室では並行して準備が行えるため、より効率的に手術を進めることができるのだそうです。また使用する薬剤や輸液も異なり、日本では使用されていない薬剤が使われていたり、反対に日本で使用されているものがなくなったりしていました。研修医や学生への指導も多少異なる点があると感じました。例えば、ドイツで麻酔科の専門医を取るには5年必要ですが、この間研修医は自分1人で麻酔をすることができません。また、日本の実習では麻酔計画を一緒に考えていましたが、ドイツでは研修医は麻酔計画には関わらず、指示通りの麻酔をかけていました。学生も手技を経験する機会があり、より実践に重きが置かれているように感じました。ドイツと日本では教育制度が異なる上に、医学教育という観点のみでも違うところが多く、一概に比較することはできませんが、日本で総合的に診療ができる医師を育てるのに対し、ドイツはより専門性を高めるような研修になっているように思いました。この4週間で、麻酔科の先生についてまわっていたことで、導入の選択や薬剤の選択、手技をする際のコツなどより臨床的な知識が身につけることができたと思います。

私は高校生の頃に留学をしていた経験から、留学に対する意欲は高く、大きな期待を持ってこの留学に参加しました。そこで実際に留学してみて自分が経験したかったことも、思いもよらなかったことも自分の想像以上の経験が得られたと思っています。私は麻酔科の実習を既に終えており、将来の選択肢の一つだと考えていたので、自分ならどのような選択をするかを考えながら、麻酔を見学していました。ドイツで実習が始まると日本との麻酔薬や使用する器具の違いなど、多くの疑問が出てきました。わからないことは質問したり、先生からも日本ではどうなの？と聞かれて必死に日本での実習を思い返したり、人とのコミュニケーションの中で、より自分の知識を深めることができたと思います。また日本では使用されていない薬剤を使用するところを実際に見る機会があったり、肝移植の手術や麻酔を

見学したり、実際に気管挿管などの手技を経験させていただいたり、4週間ありましたが、毎日が新鮮な実習でとても面白かったです。

ドイツでお世話になった先生方は、教えることに慣れている先生が多く、ベテランの先生から研修医の先生まで、丁寧に説明してくださり、質問にも雑談にも快く付き合ってくださいました。その中で私は、自分の医療英語の語彙力が日に日に高まっていることを感じていました。実習の中で質問したいこと、日本の麻酔について先生方と話したいことがあっても言葉が出なければタイミングを逃してしまうので、医療英語と日本での麻酔の勉強は家に帰って毎日していました。先生方は皆さん当たり前のように英語で説明をしてくださいましたが、母国の言語以外で専門的な話をする事の難しさを感じて、そのありがたみを知りました。毎日麻酔のことばかり考えていた日々でしたが、実習も自習も自分が成長できるチャンスなのでとても楽しく、充実していました。

また、実習の中で麻酔科の先生だけでなく、同じく日本から実習に来ていた他大学の学生さんや、マインツ大学の学生さん、他の国から実習に来ていた学生の方、麻酔看護師さんなど様々な人との交流を通じて、ドイツのことや麻酔のことなど多くを知ることができました。私は以前ホストファミリーや友達と話すことで視点が広がり、価値観に変化があったことがあり、積極的に先生や他の方と話をすることを心掛けていました。それぞれに違った生活や働き方、経歴があって、驚きだったり、羨ましさだったり、話を聞いているだけで自分まで経験させてもらったようでした。

今回、麻酔科の坂口教授やマインツ大学の福井先生をはじめとする様々な方々のご協力があってこの実習を行うことができ、言語や国の違いなど不安なことも多くありましたが、とても楽しく充実した生活を送ることができました。

私が大学病院での臨床実習で麻酔科を回ったときから麻酔科に興味があったことと、研修を始める前に医学留学をしてみたいという強い思いがあったことから、マインツ大学の麻酔科への留学を見つけた時は運命だと思いました。コロナの影響で大学生活の半分以上が変わり、海外での研修も一時期は行われておらず半ば無理かもしれないと思っていたところに、こうして貴重な経験をする機会を頂けて感謝の気持ちでいっぱいです。マインツ大学への留学を経て、以前にも増して麻酔に対する興味が深まったとともに、麻酔科の先生方の指導や麻酔への姿勢にもとても憧れ、自分も同じようになりたいと強く思うようになりました。また医学や英語への学習意欲も高まり、改めて違う環境で学ぶことの楽しさ、面白さを実感しました。今回感じたことは、チャンスは自分で掴みにいくものということです。自分の力だけでは実現できないことも相談することで力になってもらえたり、慣れない環境でも自分から積極的に学ぶ姿勢を見せることで、親身に教えてもらえたり、手技を経験させてもらえたり、何事も一生懸命やってみることが大切だと感じました。今後またこのようなチャンスがあれば迷わず挑戦したいです。